

2025 年度

農検 2 級

日本農業検定 2 級試験問題

全 70 問

試験時間 70 分

注意事項

※監督者の指示があるまで、この問題を開いてはいけません。

※問題冊子の持ち帰りはできません。

空白ページ

問 1 地産地消についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①地産地消は「地域生産・地域消費」の略語で、生産者と消費者の結びつきを強め、地域農業を支える取り組みである。
 - ②九条ねぎの京野菜や、金時草（きんじそう）の加賀野菜など全国にその土地の伝統食材がある。
 - ③長野県野沢温泉村特産の野沢菜は、明治時代に京都から導入され、地域の風土に合う品種に育てられてきた。
 - ④長く地域でつくられ食べられてきた農産物は、生産性や経済性など「地域文化」としての価値がある。
-

問 2 世界人口の増加と穀物需要量についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①世界人口の増加は主にアフリカと南米を中心に起こっている。
 - ②2022年国連の人口推計によると、世界の人口は2037年に100億人を超えると見込まれている。
 - ③穀物需要量は伸び続けており、それに伴って生産量も毎年過去最高を記録し続けている。
 - ④穀物需要量が増加している理由は、トウモロコシやオオムギなどの畜産飼料への利用が拡大しているからである。
-

問 3 飼料穀物の需要についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①穀物需要量が増え続けている理由は、世界人口の増加と畜産飼料への利用拡大があげられる。
 - ②畜産飼料増加の原因となっている家畜飼養頭数の増加は、中国やインドなど新興国の経済成長が影響している。
 - ③畜産飼料に使用される穀物は主にダイズとコメである。
 - ④中国では、2000年代に経済成長が急速に進み、「自給型畜産」から「加工型畜産」に変わってきている。
-

問 4 穀物需給の不安定化についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ① 穀物の国際価格は 2012 年以降低下していたが、2020～22 年の世界情勢により、2008 年以前を上回る高い水準となっている。
 - ② 中国やインドなどの新興国で穀物の生産が増えていることで、これまでの穀物争奪戦の時代から余剰作物を分け合う時代になったと言われている。
 - ③ 日本は 2020 年の食料・農業・農村基本計画に基づいた「総合的な食料安全保障の確立」を目指して、「国内の農業生産の拡大」と「安定的な輸入の確保」の 2 つを重点的に取り組んでいる。
 - ④ 地域別の穀物需給ではアフリカやアジアからの輸出量が増え、欧米での輸入量が増えていく見込みである。
-

問 5 農家の分類についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① 「農家」とは、経営耕地面積が 10a 以上又は農産物販売金額が 15 万円以上の世帯のことである。
 - ② 「土地持ち非農家」とは、兼業農家のうち、耕地及び耕作放棄地を 5 a 以上所有している世帯のことである。
 - ③ 「自給的農家」とは、経営耕地面積 30a 未満かつ農産物販売金額が 50 万円未満の農家である。
 - ④ 「専業農家」は、兼業従事者が 1 人もいない農家のことをいい、「兼業農家」は、兼業従事者が 1 人以上いる農家のことをいう。
-

問 6 日本の新規就農者についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ① 新規就農者の参加が望まれる中、49 歳以下の新規就農者は近年徐々に増加する傾向にある。
 - ② 「新規参入者」には、相続・贈与などにより親の農地を受け継いだ者も含まれる。
 - ③ 「新規自営農業就農者」とは、生活の主な状態が、「学生」または「他に雇われて勤務が主」だった者が「自営農業への従事が主」になった者をいう。
 - ④ 「新規雇用就農者」には、外国人技能実習生及び特定技能で受け入れた外国人も含まれる。
-

問 7 食料自給率についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①食料自給率とは、国内で消費される食料のうち、国内生産でどの程度まかなえているかを示す指標である。
 - ②「カロリーベース総合食料自給率」とは、国民 1 人 1 日に供給される熱量（カロリー）全体のうち国産品でまかなわれている熱量の割合をいう。
 - ③「生産額ベース総合食料自給率」とは、食料の重量を金額に換算して、国内で消費されている金額のうち、国内で生産されている金額の割合である。
 - ④国の経済を考えるうえでは、生産額ベースよりも、カロリーベースが良いと言われている。
-

問 8 食料国産率についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①飼料自給率も考慮して計算しているため、輸入飼料を使った生産分は含まれていない。
 - ②2022 年の生産額ベースの食料国産率は 50%を下回った。
 - ③日本の畜産業が国産飼料を多く用いて高品質な畜産物を生産している実態に着目した指標である。
 - ④2020 年 3 月に閣議決定された食料・農業・農村基本計画で位置づけられた指標である。
-

問 9 野菜の生産動向と消費動向についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①1 人 1 年当たりの野菜消費量は 1991 年の 106kg から減少が続き、2021 年には 86kg に減少している。
 - ②野菜の輸入量のうち、23%が生鮮品で、そのうち 33%を占めるタマネギは 9 割がアメリカ産である。
 - ③国内における 2021 年の野菜の産出額は 2 兆 1467 億円で、農業総産出額の 24%を占めている。
 - ④国は野菜生産出荷安定法に基づいて指定野菜と指定産地を決めており、毎年作付けする大規模産地を国が指定している。
-

問 10 畜産物の動向についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①2022年度の生乳生産量は2016年度から比べると、約10%程度減少している。
 - ②鶏卵はコロナ禍による家庭での調理の需要増により、2020～2022年度に生産量が増加した。
 - ③豚肉生産量は2016年度の89万tから2022年度の100万tへと増加している。
 - ④鶏肉は健康志向の高まりを受け、消費も好調で生産量も増加している。
-

問 11 国土保全機能についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①国土保全機能は、農村で行われる農業生産活動により、農産物の供給を含めた幅広い農業・農村の多面的な機能の一つである。
 - ②農地の土壌には雨水を一時的に貯留する働きがあるため、ダムのように洪水を防止する役割がある。
 - ③田畑の作物や水田の水は、雨や風から土壌を守るが、下流域への土壌流出は防げない。
 - ④斜面に作られた田畑は日々の手入れによって小さな損傷を初期段階で発見・補修できるため、土砂崩れを未然に防ぐことができる。
-

問 12 農業・農村の多面的機能についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①御田植祭（おたうえまつり）は、田植歌を歌いながら田植えをする風習があり、農村の文化伝承機能の一つである。
 - ②農村のもつ「保健休養機能」を都市住民に提供する取り組みを「ワーケーション」という。
 - ③農家が指導役となる「教育ファーム」（食農体験活動）は小学校1～2年生の理科の授業の体験学習に組み込まれている。
 - ④グリーン・ツーリズムは全国各地に残る伝統行事や祭りを体験する文化伝承機能の一つである。
-

問 13 植物工場についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①植物工場での人工光型の栽培では、ジャガイモやニンジンなどの根菜が主力生産物となっている。
 - ②長所は鮮度が長持ちすることと洗う必要がないことである。
 - ③植物工場では光や温度の管理はできるが、無農薬栽培技術は確立されておらず、無農薬野菜を作ることは難しい。
 - ④人工光型の養液栽培では、工場建設費が安価なため、黒字経営が多い。
-

問 14 農業におけるロボットの活用についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①農業ロボットの開発の背景には、高齢化が進み人手不足が深刻化している日本の農業情勢がある。
 - ②2020年には、イチゴの収穫ロボットだけでなく、リンゴ・ナシなどの果実の無人収穫ロボットを開発し、販売している。
 - ③イチゴ収穫ロボットの開発により、収穫の労力が減り、栽培面積の拡大も期待できる。
 - ④自動運転のロボットトラクターは、水田でも安定した走行を行い、障害物への衝突を未然に防ぐことを目指している。
-

問 15 環境保全型農業の施策についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①1992年「農業環境規範」が制定され、エコファーマーへの支援が始まった。
 - ②1999年「食料・農業・農村基本法」が制定され、農薬及び肥料の適正な使用、地力の増進、農業の自然環境機能の維持増進が推進された。
 - ③2005年「環境と調和のとれた農業生産活動規範」がつくられ、環境保全型農業に取り組む場合に支援が得られるようになった。
 - ④2011年「環境保全型農業直接支援対策」として、農業生産活動のために農業者が最低限取り組むべき行動が示された。
-

問 16 みどりの食料システム戦略についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①環境負荷の低減に取り組む生産者の事業計画を農林水産大臣が認定する。
 - ②2050年までに目指す姿として、化学農薬の使用量 50%低減や化学肥料の使用量 30%低減などを挙げている。
 - ③「みどりの食料システム法」が 2022 年に施行され、生産者や事業者に対し、さまざまな支援が設けられた。
 - ④みどりの食料システム法による支援措置には、家畜の排せつ物処理や利用のための施設・設備の整備に対する支援もある。
-

問 17 国際的な地球温暖化対策についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①COP26にて、2020年以降の地球温暖化対策「パリ協定」が採択された。
 - ②「京都議定書」では、世界平均気温の上昇を産業革命前に比べて 1.5℃以内に抑える努力を追求することが盛り込まれた。
 - ③COP21では、全ての国は 2022年に 2030年までの排出目標を再検討し、強化することに合意した。
 - ④「気候変動に関する国際連合枠組条約」では、大気中の温室効果ガスの濃度を気候に影響を与えない水準で安定化させることを目的としていた。
-

問 18 オゾン層の破壊と大気汚染についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①光化学スモッグとは、大気中に光化学オキシダント (OX) が高濃度となり、モヤがかかった状態になる現象のことである。
 - ②オゾン層の破壊は火山の爆発や森林火災、黄砂などの自然的要因と人為的要因が重なって起こる。
 - ③PM2.5は人工的につくられた炭素とフッ素の化合物の総称のことである。
 - ④1982年に北極上空でオゾン層が極端に薄い部分、「オゾンホール」が観測された。
-

問 19 生物多様性の保全に関わる条約についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①ラムサール条約は、生物多様性に富んだ重要な湿地を世界各国が保全し、湿地の恵みを賢明に利用していくことを目的とする条約である。
 - ②ワシントン条約は、野生動植物の種が不法に輸出入されないよう保護する条約である。
 - ③生物多様性条約は、ラムサール条約とワシントン条約に先立って発効された。
 - ④日本は 1980 年にラムサール条約の締約国となり、滋賀県の琵琶湖などが条約湿地に登録されている。
-

問 20 里山についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①SATOYAMA インシアティブ国際パートナーシップ (IPSI) では、多岐にわたる団体が参加し、3つの視点に立って、活動している。
 - ②集落で管理されることで、人の暮らしを守るとともに生態系を守ることにもつながっていた。
 - ③手つかずの自然が残る場所を「奥山」、人の手が入った自然と人里をまとめて「里地里山（里山）」と呼んでいる。
 - ④里山の雑木林で刈り取られた広葉樹の若い枝や草は肥料になり、カヤなどは家畜の飼料として利用されていた。
-

問 21 食品リサイクル法についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①食品の売れ残りや食べ残しなどの食品廃棄物が発生している状況の改善を図るため、2001年に施行された。
 - ②食品廃棄物には、魚の骨や野菜の芯など食べられないで捨てられているものは含まれない。
 - ③取り組みの優先順位は、循環基本法の基本原則にのっとり定められている。
 - ④取り組み優先順位 1 番目は、「食品廃棄物の発生を抑制する」である。
-

問 22 健康に良い食習慣についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①朝食をとると体温が上がりすぎることもあるので、なるべく少なめにとるのがよい。
 - ②塩分の過剰摂取により、糖尿病が引き起こされることが問題となっている。
 - ③10 項目から成る食生活指針は、食生活の改善に取り組むための具体的な目標である。
 - ④肥満度をあらわす指標である BMI は、年齢と体重をもとに計算する。
-

問 23 五大栄養素についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①五大栄養素とは、炭水化物（糖質）、脂質、タンパク質、無機質、ビタミンのことである。
 - ②五大栄養素の中の炭水化物（糖質）、脂質、タンパク質を三大栄養素という。
 - ③食生活においては、三大栄養素だけでなく、無機質とビタミンをバランスよく摂取することも考慮する。
 - ④無機質とビタミンには、摂取した三大栄養素を増やす役割がある。
-

問 24 食物繊維の働きについての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①食物繊維は「ヒトの消化酵素によって分解される食物中の成分」と定義されている。
 - ②食物繊維を十分に摂取すると、さまざまな生活習慣病の発症率や死亡率が低減することが知られている。
 - ③果物や野菜に含まれるペクチンは不溶性食物繊維である。
 - ④食物繊維の摂取量が増えると体重が増加することが一般に知られている。
-

問 25 6つの基礎食品群についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① 1群は魚・肉・卵・豆・豆製品であり、おもに体の組織をつくる。
 - ② 3群は緑黄色野菜であり、ビタミンA（カロテン）を多く含む。
 - ③ 4群は牛乳・乳製品・小魚・海藻などであり、おもに骨や歯をつくる。
 - ④ 6群は油脂であり、バターなどの動物性油脂と大豆油などの植物性油脂に分類される。
-

問 26 食事バランスガイドについての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① 日になにをどれだけ食べたらよいかを一目でわかるように、イラストで示されている。
 - ② コマの部分が5つに区分されており、最上段のエリアは「主食」である。
 - ③ 5つの区分のうち上のエリアほど面積が広く、しっかり食べる必要があることを示している。
 - ④ 実際に食べればよい量をg（グラム）単位で表している。
-

問 27 保健機能食品についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① 保健機能食品は、一般食品と医薬品の間位置する、一定の機能をもった食品群のことである。
 - ② 特定保健用食品は、申請された製品ごとに健康増進法に基づき審査が行われる。
 - ③ 栄養機能食品は、国により個別に審査され認可を受けた食品である。
 - ④ 機能性表示食品は、事業者の責任において、科学的根拠に基づいた機能性を表示した食品である。
-

問 28 米飯についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①日本におけるイネの栽培は、飛鳥時代に始まった。
 - ②イネの「粳」から4枚の粳殻を取り除いたものが玄米である。
 - ③玄米は、ミネラル、ビタミン、食物繊維を白米よりも多く含むが、消化しにくい。
 - ④中盛りのご飯(150g)には、約7,500の米粒が入っている。
-

問 29 四季の行事食についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①正月のおせち料理で供される黒豆には、子孫繁栄の願いが込められている。
 - ②古来より、日常食と行事食などの特別な日の食事は明確に区別されており、これは現代においても変わらない。
 - ③人日(じんじつ)の節句は五節句のひとつで、春の七草を入れた七草粥を食べる風習がある。
 - ④重陽(ちょうよう)の節句は五節句のひとつで、ちまき、柏餅を食べる風習がある。
-

問 30 和食についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①和食の基本である一汁三菜のうち、肉や魚、卵、大豆・大豆製品は副菜にあたる。
 - ②一汁三菜の組み合わせは、エネルギーになる炭水化物と脂質、タンパク質のバランスが自ずとよくなる。
 - ③和食は、野菜、豆・豆製品、海藻、きのこ類などを使用するため、自然と食物繊維を多くとれる。
 - ④和食の配膳においては、ご飯は左手前、汁物は右手前に配置される。
-

問 31 日本各地の郷土料理についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①いかめしは北海道の郷土料理であり、生のいかの腹に米またはもち米を詰めて甘辛く炊き上げたものである。
- ②きしめんは愛知県の郷土料理であり、手打ちの平たいうどんのことである。
- ③ふなずしは滋賀県の郷土料理であり、琵琶湖で獲れたふなを発酵させたものである。
- ④がめ煮は香川県の郷土料理であり、鶏のぶつ切りとごぼう、にんじん、こんにゃく等を醤油と砂糖で煮たものである。

問 32 食品添加物についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①食品添加物は近年生み出されたものも多く、長い経験則のなかで取捨選択されてきた食材とは違うものである。
- ②食品添加物は、指定添加物、既存添加物、天然香料などに分類され、全て合わせて100品目ほどある。
- ③市場に流通している食品に含まれる食品添加物が一日摂取許容量の範囲内にあるかどうか、摂取量調査により確認されている。
- ④過剰摂取による健康被害が生じないように、食品添加物ごとに使用できる上限値など（使用基準）を設定している。

問 33 食品の安全と品質に関する制度についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①食のトレーサビリティは、「食品の生産履歴の遡及・確認性」を意味する。
- ②国内で生まれたすべての牛と、生体で輸入された牛には、1頭ごとに個体識別番号が付与され、生産履歴が管理されている。
- ③2017年のJAS法の改正により、食品の品質の判定材料が「生産方法」、「取扱方法」、「試験方法」などにも拡大された。
- ④有機JASを取得していない食品でも、「有機」や「オーガニック」などの名称を表示できる。

問 34 食品の調理についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①人が感じることができる味は、「甘味・塩味・酸味・苦味」の4種類である。
 - ②和食の調理で使われる基本的な調味料は、食塩、醤油、味噌、みりん、砂糖、食酢である。
 - ③和食では「だし」がよく使われるが、だしを利かせると塩分過多になりやすい。
 - ④昆布だしの主なうま味成分は、イノシン酸である。
-

問 35 食中毒予防についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①食中毒とは、食べ物や飲み物を介して引き起こされる急性の健康障害のことである。
 - ②毒きのこや貝毒など、動植物が普段から持っている自然毒が原因となる食中毒もある。
 - ③ノロウイルスによる食中毒は、梅雨時から秋口がいちばんのシーズンとなる。
 - ④食中毒予防には、肉や魚（生食用を除く）は十分に加熱することが重要である。
-

問 36 土壌に播種した種子が発芽するために必要な要素について、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①土壌中の適度な水分
 - ②作物に合った適度な温度
 - ③土壌中の空気（酸素）
 - ④土壌中の養分
-

問 37 光合成についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①光のエネルギーを利用し、空気中の酸素と根から吸い上げた水を原料にして、炭水化物を合成する働きである。
 - ②光合成作用が主に行なわれる場所は、葉の細胞中にある葉緑体である。
 - ③太陽の光が照らしている昼間は光合成速度が速くなるが、光が当たらない夜は遅くなる。
 - ④作物を密植することで光合成能力が高まり、品質や収量を向上させることができる。
-

問 38 植物の呼吸作用についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①光合成作用でつくられた無機物を合成し、生命活動に必要なエネルギーを取り出す働きをしている。
 - ②植物はほかの生物と異なり、成長するエネルギーを得るために呼吸をしている。
 - ③酸素を取り込み、二酸化炭素を排出している。
 - ④呼吸作用は昼には行われず、夜間に行われる。
-

問 39 気孔についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①2つの孔辺（こうへん）細胞が向き合う形をしており、細胞のすき間を開閉することができる。
 - ②ほとんどの植物では、気孔は葉の表裏に均一に分布している。
 - ③光合成の原料である二酸化炭素の取入れ口、光合成の副産物である酸素の出口となっている。
 - ④蒸散は、おもに葉の気孔で行われる。
-

問 40 花芽分化についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①植物の花芽分化は、気温と日長、栄養条件などの要素に影響される。
 - ②レタスは 20℃以上の高温に一定期間さらされると感応し、花芽分化が始まる植物である。
 - ③キャベツは緑植物感応型の植物で、生育の大きさに関係なく 10℃以下の低温になると花芽分化する。
 - ④ダイコンは種子感応型の植物で、春どり栽培ではハウスやトンネルで被覆し、脱春化处理をすることで花芽分化を防いでいる。
-

問 41 花のつくりについての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①花には、1つの花の中に雌しべと雄しべの両方を持つ「両性花」と、雄しべだけをもつ雄花と雌しべだけをもつ雌花が別々に咲く「単性花」がある。
 - ②両性花は花の中心に雌しべがあり、そこから外側に向かって、雄しべ、花弁、がく、がついている。
 - ③雄しべの先についている袋は「葯（やく）」と呼ばれ、中には花粉が入っている。
 - ④雌しべの根元のふくらんだ部分を花托（かたく）といい、その中には胚珠（はいしゅ）が入っている。
-

問 42 受粉と受精についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①花粉が雌しべの柱頭につくことを受精という。
 - ②花粉には粘液や毛が付いていて、雌しべと花粉が付きやすくなっている。
 - ③受粉の方法には自家受粉と他家受粉の二つがあり、植物はどちらか一方の方法で受粉が行われる。
 - ④ダイコンやキャベツは両性花であるが、同じ個体の花粉が柱頭についても受粉できない自家不和合性の性質がある。
-

問 43 野菜の病気で、病原体がウイルスによるものは次のうちどれですか。

- ①ダイズのべと病
 - ②ジャガイモのモザイク病
 - ③イネのいもち病
 - ④ハクサイの根こぶ病
-

問 44 植物の病原体についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①作物に伝染する病気の病原体には、カビ、細菌、ウイルスの3種があり、その中でも被害が最も多いのはカビである。
 - ②カビの一種である糸状菌を大別すると、「空気伝染性」のものと「土壌伝染性」のものがある。
 - ③細菌はバクテリアとも呼ばれ、病原体の中で最も小さく、作物の気孔や傷口から侵入し、病気を引き起こす。
 - ④ウイルスは生物とみなされていないが、ほかの生物に侵入し増殖することで病原体となる。
-

問 45 おもな害虫とその被害についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①おもな害虫は昆虫、ダニ、センチュウで、被害形態として植物体を食べる「食害」と、植物体から汁を吸う「吸汁害」に分けられる。
 - ②ヨトウガの老齢幼虫は、昼間に土壌から出てきて葉を食害する。
 - ③アブラムシの成虫は毎日卵を産み、孵化（ふか）した幼虫から成虫まで葉や新芽に寄生し吸汁する。
 - ④植物寄生性センチュウは体長 0.5 ～2 mmと害虫の中では小さく、おもなものは、植物の葉や茎の傷口から侵入し、加害する。
-

問 46 耕種的防除法についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①食品由来の気門封鎖型殺虫剤は、害虫の吸気口をふさいで窒息死させる速効性のある農薬である。
 - ②ナスの周囲にソルゴーを植えることで、ナスにつく害虫がソルゴーに付き、それを餌にする土着天敵を増やして害虫を抑制する。
 - ③果樹園内に黄色蛍光灯を設置することで、果実の害虫による被害を1割以下に抑えることができる。
 - ④科の違う作物の輪作は病害虫密度を減らし、またナス科作物とニラの混植は土壌病害の抑制効果がある。
-

問 47 作物が育ちやすい土壌の説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①土壌中のすき間が小さくなるほど保水性や通気性が良くなり、微細なすき間に水分を保つことができる。
 - ②土壌の三相分布の好適割合は、固相 30%、液相 30%、気相 40%である。
 - ③単粒構造の土壌を団粒構造の土壌に変えるには、無機物を投入して土壌の中に腐植を増やすことが重要である。
 - ④土壌の酸性が強まると、鉄やマンガンが土に溶けだして作物に過剰害を与えるため、土壌に石灰資材を加えることで改善を行う。
-

問 48 土壌の酸性化と野菜についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①土壌の酸性度は pH の数値で表され、pH7 を中性として数値が下がると酸性が強くなり、数値が上がるとアルカリ性が強くなる。
 - ②野菜にはそれぞれ好む土壌の酸性度があり、ほとんどの野菜は中性から弱アルカリ性の土壌を好む。
 - ③土壌の酸性化が進む原因として、化学肥料の多用が考えられる。
 - ④酸性土壌を好む野菜には、サツマイモやジャガイモがある。
-

問 49 イネの栽培についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①田植え機での移植栽培は、株間に対して条間を広くとるため、長方形植えと呼ばれている。
 - ②栽培過程で発生するおもな害虫は、カメムシ類、ヨコバイ類、ウンカ類である。
 - ③水田で栽培する水稲(すいとろ)、畑地で直まき栽培する陸稲(りくとう)ともに、イネの栽培で連作障害は起こらない。
 - ④栽培の課題として、地球温暖化にともなう耐暑性の育種が挙げられる。
-

問 50 イネの種もみ・育苗についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①種もみを選種する際、うるち米の場合は比重 1.13 の塩水に入れ、上に浮かんだものを種もみとして使用する。
 - ②育苗箱への種まきは、水に浸けて吸水した種もみを加温し、芽出し(催芽)したあとに育苗箱にまく。
 - ③出芽後は、光にならすために2~3日間寒冷紗や不織布で覆い、直射日光を避けて育てる。
 - ④緑化した苗は、田植え直前まで外気温にならし、自然温度下で生育する。
-

問 51 ネギの栽培についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①植え付ける畝には、元肥として堆肥や苦土石灰を施すが、化成肥料は不要である。
 - ②乾燥に弱いため、通気性の良い壤土や砂壤土は栽培する用土として適さない。
 - ③根深ネギの葉鞘を軟白化するために行う土寄せは、回数が多いと葉鞘の伸びが不十分となる。
 - ④強い光を必要とするため、光の弱い冬季の栽培には向かない。
-

問 52 ハクサイについての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①ハクサイの根こぶ病は酸性土壌を好むため、石灰を多めに施す必要がある。
 - ②近年の家族の少人数化に伴って、通常の4分の1ほどの大きさのミニハクサイもつくられるようになった。
 - ③直接根に肥料が当たると傷むため、追肥の際は株元を避けなければならない。
 - ④弱光にも耐えられ、結球期にも多くの光を必要としない。
-

問 53 ブロッコリーについての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①現在一般的に販売されているのは、わき芽の先端にできる花蕾を収穫する「側花蕾型（そくからいがた）」である。
 - ②「スティックセニョール」は側花蕾型の一種で、キャベツの仲間であるカイランとブロッコリーを交配させてできた品種である。
 - ③収穫後は黄色く変色しやすく、冷蔵庫で保存する場合は横にするとよい。
 - ④「リーフィーヘッド」は生育中の極端な低温により、花蕾の間に小さな葉ができる発育障害である。
-

問 54 ホウレンソウについての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①現在、市場に出回っている多くの品種は、とう立ちをしにくい特徴をもつ西洋種である。
 - ②街路灯の光でもとう立ちすることがあるため、夜間に照明が当たる場所での栽培は避けた方がよい。
 - ③種子は果皮が固く水を吸収しにくいいため、播種する前に種を一晩水につけ、発芽を促す方法もある。
 - ④秋まきした場合の収穫は、4℃以下の気温に1～2週間さらすと糖度が高まり、甘味が増す。
-

問 55 カボチャについての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①日本カボチャの中には、中が素麺（そうめん）状に剥離する「ソーメンカボチャ」というユニークな在来品種がある。
 - ②カボチャの花は雌雄異花で、雄花の開花適温は10～12℃である。
 - ③土壌の適応幅は狭く、連作障害がしやすい。
 - ④西洋カボチャの収穫時期は開花後40～50日で、果皮のツヤが出てくるのが収穫の合図となる。
-

問 56 キュウリについての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①苗を購入する場合、ツル割れ病と疫病に耐性のあるカボチャ台木の接ぎ木苗を選ぶとよい。
 - ②受粉がされなくても実が肥大する「単為結果性（たんいけっかせい）」の性質をもつ野菜である。
 - ③葉面積は、ほかの野菜に比べて大きいため蒸散量が多く、その分灌水量が必要となる。
 - ④果実の表面につく白い粉（ブルーム）は、カボチャを台木にした接ぎ木苗に発生する。
-

問 57 スイートコーンについての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①スイートコーンの栽培では、地中にしっかり根を張らせるため、移植栽培ではなく直まき栽培が行われる。
 - ②受粉が確実に行われるために、同じ品種を隣接させて2条以上植えるとよい。
 - ③絹糸が見え始めたころに雄花を切ると、実に養分を集中させることができる。
 - ④赤や紫、黄などの種子が混在するカラフルなトウモロコシができる品種がある。
-

問 58 ナスについての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①「3本仕立て」では、伸ばしている3本の枝より下の枝から出るわき芽を放任することで、多くの果実をつけることができる。
- ②一、二番果の収穫は、株の生育を促すために品種の特性にあった大きさ、長さになってから切り取るとよい。
- ③果実の若どりを続けて行うと株が弱るため、若どりの連続収穫は推奨されていない。
- ④更新剪定は、枝元の葉を2～3枚残して切り、株のまわりにスコップを入れて根を切る作業である。

問 59 ピーマンとシシトウガラシについての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①ピーマンはトウガラシの甘味種を改良したものである。
- ②シシトウガラシはトウガラシの仲間で、トウガラシは辛味種、シシトウガラシは甘味種である。
- ③トウガラシの近くでシシトウを栽培すると辛みがでるので、栽培する場所に気を付ける。
- ④ピーマンとシシトウガラシは明治時代に入ってから日本に伝わり、第二次世界大戦後に一般に広まった。

問 60 ダイコンについての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①流通の主流となっている青首大根の品種群には、「三浦大根」や「練馬大根」が含まれる。
- ②種子は、光によって発芽が促進される好光性種子である。
- ③肥大した胚軸部が地上に伸び出す性質のことを抽根性(ちゅうこんせい)といい、抽根性が強い品種ほど抜きにくい。
- ④収穫が遅れると、根の内部が「す入り」と呼ばれるスポンジ状になるため、適期に収穫を行なう。

問 61 ニンジンの品種についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①西洋ニンジンアメリカ、東洋ニンジン中国を經由し、両品種とも明治時代に日本に導入された。
 - ②西洋ニンジンカロテンを多く含み、オレンジ色のものが多い。
 - ③東洋ニンジン品種である「金時ニンジン」は、リコペンを多く含み赤色のものが多い。
 - ④沖縄県では、黄色の在来種「島ニンジン」が栽培されている。
-

問 62 ニンジンについての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①アブラナ科の野菜で、原産地は中央アジア、アフガニスタンである。
 - ②種子は嫌光性種子で、播種は光が当たらないように土をかぶせ、発芽をそろえることが、その後の生育に大切である。
 - ③乾燥した後の降雨や収穫が遅れると、岐根（きこん）が生じやすくなる。
 - ④根の内部が外部より成長が早くなると、根に割れ目が生じる裂根（れっこん）が発生する。
-

問 63 サツマイモについての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①青果用品種は、東日本で「ベニアズマ」、西日本で「鳴門金時（なるときんとき）」が多く栽培されている。
 - ②焼酎用には「シロユタカ」という品種が利用されている。
 - ③植え付けの際、苗がしおれていたら、水に浸けて苗をピンとさせるとよい。
 - ④収穫直後よりも2～3週間後の方が糖度が増す。
-

問 64 ジャガイモについての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①種イモが 60g くらいの場合は、2 つ切りにする。
 - ②そうか病を予防するために、植え付けの 1 週間前までに苦土石灰を施しておく。
 - ③イモの肥大促進と、緑化防止のために土寄せを行う。
 - ④芽にはグリコアルカロイドの一種である有害物質が含まれているが、熱を加えることで分解することができる。
-

問 65 日本で栽培されているラッカセイの品種についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①「千葉半立（ちばはんだち）」は多収ではないが、煎り豆にすると食味が良く、千葉県で最も多く栽培されている。
 - ②草型が立性の「ナカテユタカ」は多収で、野菜作後の肥沃な畑での栽培に適している。
 - ③草型が半立性の「おおまさり」は、実の重さが他の品種の約 2 倍あり、茹で落花生にすると栗のような風味がある。
 - ④草型が半立性の「Q なっつ」は、莢が薄く白いのが特徴で、茹で落花生に適している。
-

問 66 ラッカセイについての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①原作地は南米アンデス山麓で、国内の主な生産地は千葉県・茨城県である。
 - ②海外では主に食用油の原料として大粒種が栽培されるが、日本で栽培されているほとんどは食用になる小粒種である。
 - ③根に付く根粒菌は、空気中の窒素を固定して土壌を肥沃な状態にする。
 - ④アレルギーとして、表示義務のある食品の 1 つである。
-

問 67 メロンの栽培についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①ノーネット系よりも吸肥量が少ないネット系のメロンは、多肥栽培をすると裂果が発生しやすい。
 - ②砂地の栽培土壌では、追肥を基本的に行わない。
 - ③収穫前に草勢が衰えてしまうことを防止するために、遊びヅルを作り残すとよい。
 - ④収穫前の糖度上昇期に、養水分の吸収を活発にすると糖度が増すため、頻繁に水やりをしたほうがよい。
-

問 68 メロンについての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①日長と関係なく花芽分化が起こる「中日植物」である。
 - ②同じ株の中に両性花と雄花をつける「両性雄性同株型（りょうせいゆうせいどうしゅがた）」と、雌花と雄花をつける「雌雄同株型（しゅうどうしゅがた）」に分けられる。
 - ③メロンのネットは、果肉が肥大する時に皮がはじけてヒビ割れができ、これをふさごうとしてできたコルク層がネット状になったものである。
 - ④果菜類の中で最も根の酸素要求度が低く、保水性のある土壌が栽培に適している。
-

問 69 リンゴについての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①1年を通して葉がついている常緑果樹である。
 - ②花芽は、葉と枝になる組織が一緒に入っている混合花芽である。
 - ③暖地では開花したあとに葉芽が展葉するが、涼しい気候地ではほぼ同時期に開花・展葉する。
 - ④自家受粉により結実するので、受粉樹を必要としない。
-

問 70 果樹についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①6月頃の摘果作業は「ジューンドロップ」と呼ばれている。
 - ②果実の収穫直後、貯蔵養分を蓄積するために施す肥料を「秋肥」と呼ぶ。
 - ③秋から冬にかけ、木が徐々に寒さにあうにつれて耐寒性が強まることを「ハードニング」という。
 - ④秋から冬にかけ耐寒性が強まるのは、水分量の減少と糖含量の増加により、樹液の融点を低下させるなどの変化が起こるからである。
-

空白ページ

日本農業検定